

## 宮古諸島におけるカワカミシロチョウの大挙飛来(2015年)

砂川博秋※

はじめに

「カワカミシロチョウは、沖縄諸島での土着種ではなく台湾南部あるいはフィリピン方面からの飛来であると考えられる。1975年、1980年、1995年、2003年にも南西諸島で多数採集されており集団で飛来したと思われる」(白水、2006)。このチョウは普段からある程度渡ってきているようで、筆者も宮古島で2005年5月15日に上野、同年7月21日に大野山林、2006年7月4日に大野山林、2011年7月26日に大嶽公園で観察している。

宮古島におけるカワカミシロチョウの大挙飛来に気づいたのは2015年の6月13日だった。その日、大野山林西側のシロノセンダングサが道路わきに40mほど続く場所を通ると白い蝶がたくさん飛んでいた。最初、ナミエシロチョウかと思ったが、よく見るとカワカミシロチョウだった。とりあえず、6♂13♀を採集したが、全体で40~50頭が観察できた。翌日、同じ場所を訪れると15頭が観察できた。場所を変えて学びの森北側のシロノセンダングサへの飛来数を数えたら、30mの間に16頭(♂10 ♀6)であった。この時点で大挙飛来が考えられたので6月15日に来間島、伊良部島を調査した。来間島で道路沿い30m範囲のシロノセンダングサに30~40頭のカワカミシロチョウを観察し、そのうち♂3 ♀3(そのうち黄色型1)を採集した。伊良部島・牧山でも同程度の、チョウ(道路沿い30mの間に30~40頭)が吸蜜していたので、♂7 ♀5(黄1)を採集した。6月16日には池間島でおおよそ20~30頭が飛び回っていたので、♀2頭を採集した。野田山林でも、30~40頭が群れていたもので、♂4 ♀3頭を採集した。6月18日は宮古島の4ヶ所を調査した。その結果、野原:大嶽公園で♂10 ♀2頭、新里地区で♂8 ♀5頭、ウイピア地区で♂15 ♀10頭、新城地区で♂15 ♀13頭を確認することができた。

その後、最初にカワカミシロチョウ確認した大野山林で観察を続けたところ6月24日には、♂13 ♀18頭、7月4日には♂7 ♀4(黄2)頭、7月7日は♂7 ♀4頭観察された。7月に入ると翅はボロボロの状態だったので、5月下旬から6月上旬にかけての飛来だったと思われる。採集した個体は、♂32、♀29、♀黄色型6で標本は筆者が保管している。

桑田昇氏の私信によると、「5月27日の朝から昼にかけて大神島の近くまで船で釣りに行った時、海上をたくさんの白いチョウが宮古島の方向へ飛んでいくのが見えた。釣りによくいくが、こんな経験は初めてのこと」とのことであった。このことから、本種の飛来時期は5月下旬だと考えられる。

引用文献

白水隆, 2006年. 日本産蝶類標準図鑑 : 58pp

※宮古島市平良字西里 529-1



カワカミシロチョウ ♂



カワカミシロチョウ ♀



♀ : 黄色型